

澤村第98期決算微減収増益

**衣料テキスタイル、スポーツ
シャツが善戦**

澤村第98期(2018年10月1日～2019年9月30日)商品部門別売上高

商品部門		売上高(千円)	構成比(%)	前期比(%)
テキスタイル	衣料テキスタイル	4,649,027	47.55	109.32
	レース	473,825	4.85	104.81
	産業テキスタイル	1,107,154	11.32	87.98
	小計	6,230,000	63.72	104.47
製品事業	インナーアパレル	1,600,453	16.37	83.03
	スポーツ/アウターアパレル	1,620,055	16.57	105.36
	非衣料製品	245,692	2.51	91.85
	小計	3,466,200	35.45	92.86
不動産	不動産賃貸	80,255	0.83	97.27
	小計	80,255	0.83	97.27
合計		9,776,461	100.00	99.98

澤村(大阪市本社)の98期決算(2018年10月1日～2019年9月30日)は売上高97億7646万1000円(前期比99.98%)、営業利益2億252万円(同84.62%)、経常利益1億8872万円6000円(同88.77%)、税引前利益1億8818万6000円(同157.94%)、当期純利益1億858万9000円(同150.87%)で売上高は減少したものの当期純利益は大幅に上回る。衣料テキスタイルとスポーツアパレルが善戦した。

商品部門別売上高はテキスタイル事業が62億3000万円(構成比63.72%)と前期よりも2.74%増加する。この内の衣料テキスタイルが46億4902万7000円(前期比109.32%)で裏地シャツ向けが好調、レースは4億7382万5000円(同104.81%)、産業テキスタイル11億715万4000円(同87.98%)と自動車向けが減少した。製品事業は34億6620万円(同92.86%)と構成比は前期よりも2.72%減少する。この内のインナーアパレル事業は売上高16億45万3000円で構成比16.37%、前期比83.03%に留まる。これに対してスポーツ・アウターアパレルはインナーよりも多くなり16億2005万5000円の売上高で前期比105.36%となる。不動産は京都の不動産を売却したことで減収となった。海外はタイが苦戦しベトナムが伸びており、台湾企業とアジアでの展開を図る。新年度は組

織力、人材力のレベルアップを図り売上高100億円を目指す。

同社は2019年12月12日定時株主総会を開催し春日和夫社長が代表取締役会長に就任、代表取締役社長には春日強代表取締役副社長が昇格した。

春日強(かすがつよし)氏1956年9月11日北海道生まれ、62歳、京都産業大学卒後同年4月澤村入社、アウター営業部、名古屋支店長、アイビス販売部長、財務部副部長、取締役管理本部長兼財務部長などを歴任。



春日 強社長